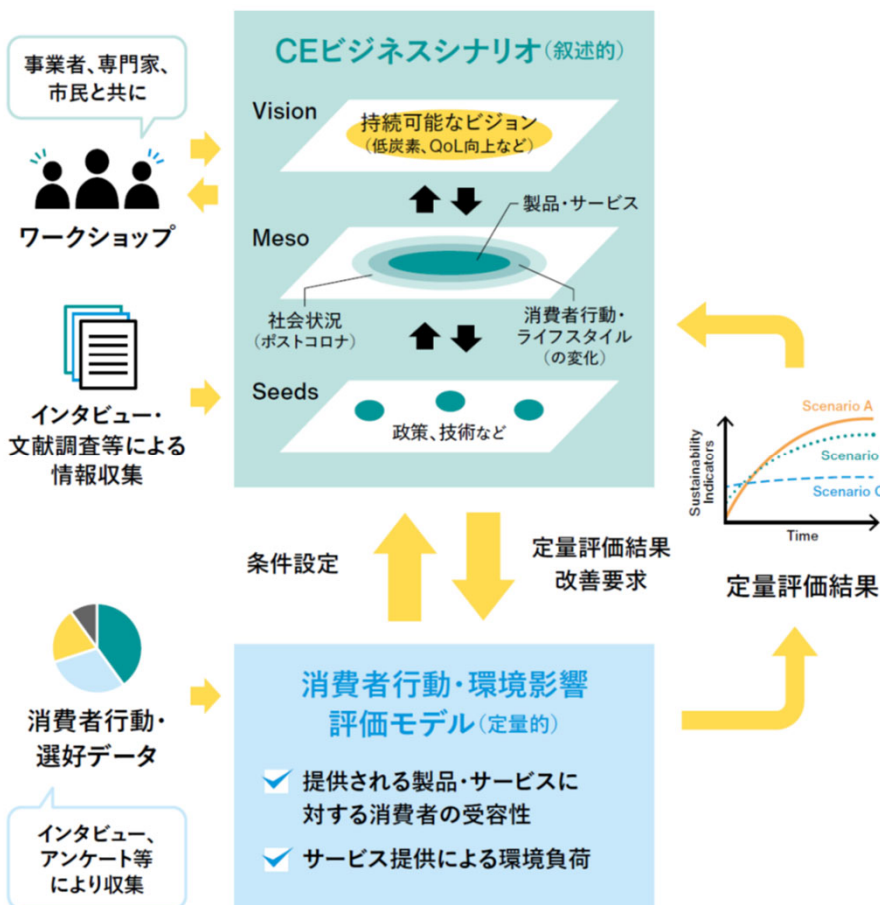


研究課題番号	3RF-2204
研究領域名	資源循環領域
研究課題名	サービス志向型サーキュラーエコノミービジネスの環境負荷削減ポテンシャル評価に関する研究
研究代表者名（所属機関名）	木下裕介（東京大学）
研究実施期間	2022年度～2024年度
研究キーワード	サーキュラー・エコノミー、シェアリング、消費者受容性、シナリオ、ライフサイクル分析

研究概要、研究成果等

従来のリニアエコノミーから資源を高い価値のまま循環させることを目指したサーキュラーエコノミー（CE）のコンセプトが国内外で大きな注目を集めています。資源効率の向上を目指す点で、我が国が2000年前後から推進してきた循環型社会と理念的に重なりますが、CEは持続可能な社会に向けて社会経済システムの転換や新たなビジネスモデルの構築を志向している点に特徴があります。一方で、社会ではカーシェアリングや衣服レンタルのように、製品とサービスを適切に組み合わせることでCEの実現に貢献しうるビジネスが様々に見られるようになってきました。このように、従来の製品売り切り型のビジネスではなく製品の機能をサービスとして提供するビジネスを、本研究では「サービス志向型CEビジネス（Service-oriented circular economyビジネス：SoCEビジネス）」と呼びます。サービス志向型CEビジネスの特徴は、製品とサービスを適切に組み合わせる点にあり、消費者受容性・ニーズを充足しながら投入資源量を従来の製品売り切り型よりも削減する効果が期待できます。

本研究では、消費者の受容性を考慮しながら環境負荷低減に資するSoCEビジネスの実現に向けて、SoCEビジネスの環境ポテンシャル評価方法を提案することを目的としました。提案手法の特色は、ありうるSoCEビジネスを叙述的なシナリオとして記述し、それらを消費者行動・環境影響評価モデルと接続することで定量的に評価可能とした点にあります。本研究では、バイクシェアリング、衣服レンタル、家電サブスクリプションサービスの3つの事例を用いて提案手法の妥当性・有効性を検証しました。提案手法により、SoCEビジネスをシナリオの形式で作成、定量評価、改訂、再評価するためのサイクルを効率的かつ反復的に実行できるようになり、結果として、SoCEビジネス事業者などの実務家や政策立案者が消費者受容性を考慮しながら環境負荷低減に資するSoCEビジネスの条件・方策等を導出できます。



環境政策等への貢献

提案手法は、様々なシナリオを定量的に比較評価することを通して、政策立案者が消費者受容性を考慮しながら環境負荷低減に資するSoCEビジネスの条件・方策等を導出するために活用できます。